

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

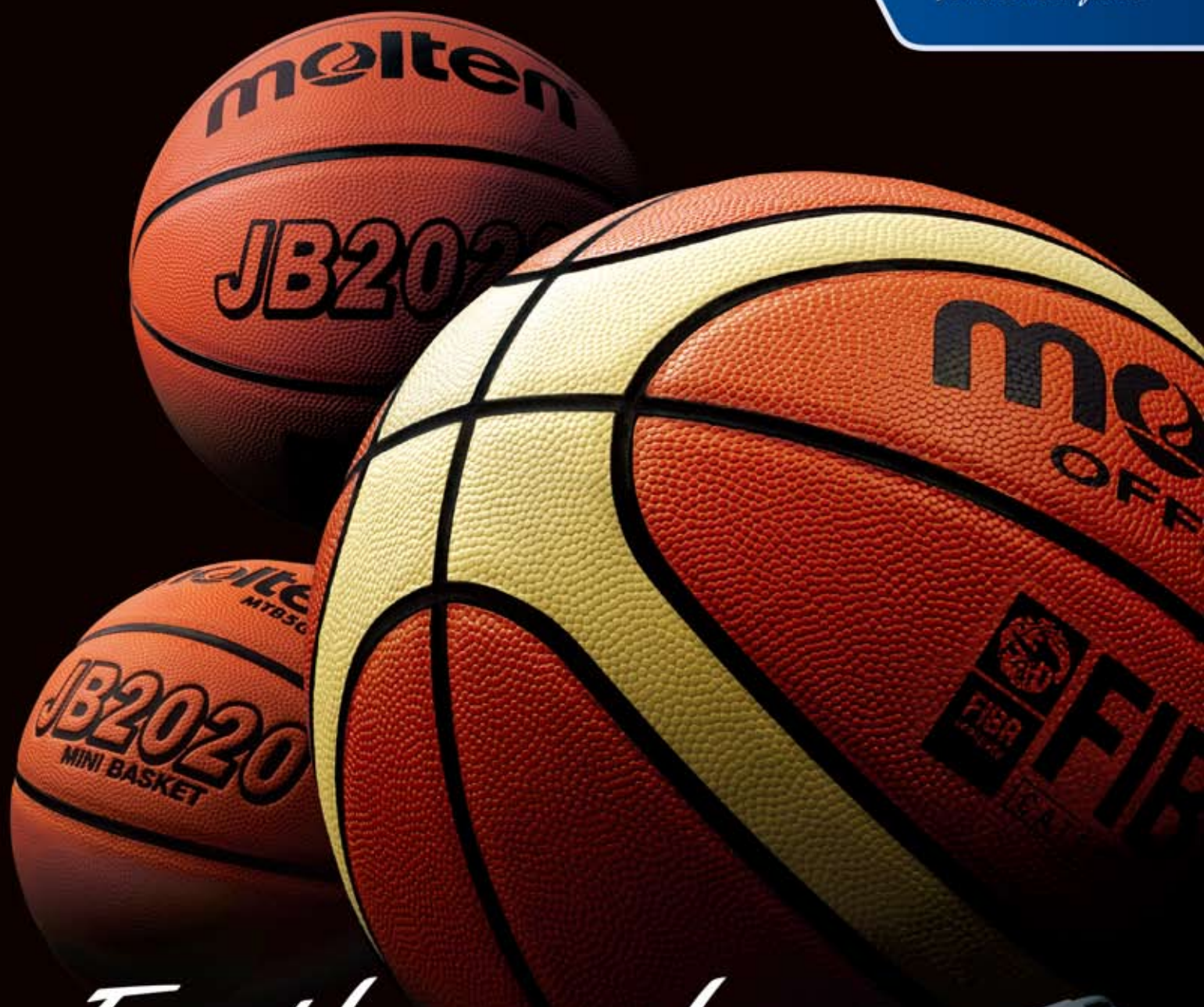
No.76



2017年11月

NPO法人 日本バスケットボール振興会

molten[®]
For the real game



For the real game

「プレイヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに
世界に類のない、ボールとスポーツエキップメント・メーカーとして
常に完璧な製品づくりを目指しています。



目 次

- 秋の講演会・交流会開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
Wリーグ会長 斎藤聖美氏 講演
和やかな交流会
- 「AKATSUKI FIVE」 男子日本代表 世界への挑戦・・・・・・・・ 9
FIBA ワールドカップ 2019 アジア地区予選
- 第93回天皇杯、第84回皇后杯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
全日本選手権大会3次ラウンド
- 世田谷区中学生初心者向けクリニック・・・・・・・・・・・・・・ 総務部・普及部・・・・ 15
- 日本で初めて開催された国際競技大会・・・・・・・・・・・・・・ 普及部・・・・ 17
100年前の第3回極東選手権競技大会
- バスケットボール発祥の地と京都との絆・・・・・・・・・・・・・・ 普及部・・・・ 20
発祥の地で学んだ日本人の国内普及活動
- 会員だより
日本バスケット・歴史の一コマ・・・・・・・・・・・・・・ 鹿子木其員・・・・ 22
代々木から香港に～・・・・・・・・・・・・・・ 渋谷美由紀・・・・ 26
- Bリーグ盛況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
- Wリーグ中間成績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
- 訃報・追悼文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
- 事務局だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
- プラザ こぼればなし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

秋季講演会・交流会開催

Wリーグ会長 齋藤 聖美氏 講演

[編集部]

恒例の秋季講演会と交流会が、11月6日、東京御茶ノ水の池坊東京会館で開催された。講師には、リオ・オリンピックで活躍した選手を送り出した、一般社団法人バスケットボール女子日本リーグ（通称WJBL）の代表理事・会長の齋藤聖美氏を迎え、多数の会員と、聴講を希望するバスケットボール関係者とで、昨年が続いて会場は満員となった。

講師を引き受けられた齋藤さんは、お茶の水女子大学付属高校時代に、有名な畑龍雄先生にバスケットボールのコーチを受けたという歴史を持っておられるが、プロフィールにもあるように大変有能なビジネスウーマンでもある。

齋藤聖美氏プロフィール



1950年 東京都出身 66歳

1973年 慶応義塾大学卒業

1981年 ハーバードビジネススクール経営大学院卒業 MBA

職歴 日本経済新聞社、ソニーで勤務ののちハーバード大学院へ留学。

モルガンスタンレー投資銀行を経て、2000年に国債電子取引システム運営会社(株)ジェイ・ボンド

(現ジェイ・ボンド東短証券(株))を設立、現在に至る。

昭和電工(株)監査役、鹿島建設(株)社外取締役

著書 「女の出発（たびだち）ハーバード・ビジネススクール」東洋経済新報社

「そうだ！社長になろう」文藝春秋 他多数

その他 TV東京ニュース番組『オープニング・ベル』に2年間出演、各種テレビ・ラジオ番組でコメンテーター等を務める

講演概要

演題 「Wリーグの現状と2020東京に向けて」

本日は、バスケットボールのことやその状況をよくご存知の方が多くおられ、緊張しております。

さて、女子日本代表の国際的な活躍については、すでに皆さんご承知の通りで、アジア大会で3連覇し、リオ・オリンピックでも8位入賞と大活躍しました。特にアジアのチーム構成枠が変わり、高身長で強豪のオーストラリアが編入された今回のアジア大会では、決勝でオーストラリアを破って優勝しました。

日本代表チームの選手たちは、すべてWJBLのチームが送り出しています。WJBLとして、組織をしっかりと運営していく責任を強く感じているところです。

長い間、麻生太郎さんにWJBLの会長をお願いしていましたが、麻生さんが政府で重要なポジションにお就きになって、継続いただけなくなりました。そこで、私にお鉢が回ってきました。

私は、高校時代には、ベンチウォーマーとしてバスケットボール部にいました。大学では同好会程度で、バスケットボールはあまり熱心ではありませんでした。

そんな私がWJBLの会長を引き受けたのは、三井生命に在籍していた西井専務理事にビジネスでお世話になったご縁によるものです。

最初、年に数回の理事会に出席するだけと聞いていましたが、それは、名前だけでお役目が果たせる麻生さんならではのことで、私は汗水流して働かなくてはなりません。でも、おかげさまでいろいろ楽しい経験させていただいております。

Wリーグは、東京オリンピックが開催された3年後の1967年に、日本リーグ女子の部として発足し今年創立50周年を迎えます。この間、組織は女子日本リーグ(WJBL)となり、大会名をWリーグに改編してから今年で19年目となります。Wリーグ20周年の来年は何か盛大に行事を開催したいと願っています。

Wリーグの大きな目標は3つあります。バスケットボールの普及、技術向上による強化、そして子供たちに対する指導です。

男子Bリーグはプロ運営で専門的要素が大きいですが、女子の場合は殆どがアマチュアで普及と指導に力点を置いています。子供たちを対象に行うクリニックでは、各チームの現役とOGが共同で指導してくださっています。あこがれの選手に会えることは少女たちに大きなインパクトを与え、よい体験となっています。スポンサーである全農さんのご協力もあって、全国的に展開してきました。

この活動にWJBLは今後も力を注ぎ、社会貢献活動の一環としてバスケットボールを通じて青少年の育成に努めてまいります。

現在WJBLには12チームが登録されていますが、このうち3チームがクラブとして運営を行っています。12チームの分布をみると愛知県に5チームが集まり、静岡、神奈川、山梨、新潟、茨城に各1チーム、東京2チームと所在地が偏っているところが、悩みでもあります。今年度のリーグ戦は各地方協会のご協力によって全国38都道府県で開催されており、普及面でお役に立っていると思っております。



ちなみに、昨シーズンは約18万人の観客を動員することができましたが、1試合平均では1,300人程度で、男子のB1リーグの3,000人規模と比べるとまだまだ少なく、どうしたら女子に目を向けてもらえるのかという課題を抱えています。

全国38都道府県で198試合のリーグ戦を開催している割に、観客動員が少ないということには、いろいろな要因があると思われます。大きな体育館の確保が難しいことや、広報活動の不足、マーケティングを担当する専門の組織がないことなど多岐にわたると考えています。

日本のバスケットボール人口の競技登録者数をみると、約64万人のうち女子は約27万人で他のスポーツに比べて、女子の登録者数が多くなっています。細かく見ると、小学生では男子より女子の方が多いのですが、中学生以上では男子に逆転され、全ての階層で女子が少なくなっています。

一般的に男子の身長は中学、高校生になっても伸び続けますが、女子では中学生くらいで伸びがとまる傾向にあります。そこで、早々と、バスケットを諦めてしまうのかなあと勝手に想像しています。中学生以上のバスケット女子が減ることも、観客動員不足の一因になっているのかもしれない。

女子バスケットボールを国際的にみると、1974年のアジア大会へ初めて参加し、優勝しています。翌年、南米コロンビアで開催された世界選手権大会では生井選手の大活躍で準優勝し、女子バスケットボールが正式種目として採用された1976年のモントリオール・オリンピックでは6チーム中5位でした。しかし、この大会で日本はアメリカやカナダに勝っています。

男子は、モントリオール・オリンピック以降オリンピックに出場できていませんが、女子はその後もアジアで上位を占め、アトランタ、アテネ、リオとオリンピックに出場し、世界ランキング13位ながら国際舞台でみごとに活躍してきました。

特に今年インド・バンガロールで開催されたアジア大会では、渡嘉敷選手が不在、しかもキャプテン吉田選手が怪我でプレイできない状態にありながら、今回からアジア地区に編入された強豪オーストラリアを破って優勝するという偉業を成し遂げました。

現在、女子日本代表の平均身長は177cm程度ですが、世界では180cm台後半となっており、190cm台の選手も多い状況です。日本代表に180cm台は7人ほどいますが、190cm台は渡嘉敷選手のみで国際的には低身長です。そんなハンディを乗り越えての国際舞台での活躍は頼もしい限りです。



先ほど観客動員数について申しあげましたが、今年からW-TVと称するインターネットによる全ての試合の無料ネット配信を行っています。また、SNSを活用した広報活動など、できることから前向きに取り組んでまいります。

TVにおいては、NHKが10年以上プレーオフの試合を全国ネット

で生中継放映してくれていますし、13年ぶりに復活した一昨年のオールスター戦以来、BS-TBSが全国生放映を行ってくれています。大変ありがたいことと、深く感謝しています。



Wリーグの今後の課題としては、具体的に下記の事柄が挙げられます。

1) 体育館確保

体育館不足にあいまって、Bリーグとの競合もあり困難性が高まっています。このハコの問題については、アメリカNBAなみに2万人を収容できるのは、さいたまスーパーアリーナだけで、多くの人が集まって楽しめる場所が少ない状況です。

特に地方では、スリッパに履き替えて入場し、館内は飲食禁止の所が多く、環境的な改善が望まれます。

2) 上位チームとクラブチームの格差拡大と観客動員

ワンサイドゲームは誰が見ても面白くなく、どうすれば面白いゲーム展開にできるか運営方法に頭を悩ませています。

昔から、バスケットボールはするもので、観戦するスポーツではないという風潮があるような気がします。これを打破するような広報活動の強化が必要と考えます。

3) 広報活動強化

マーケティング専門の会社がついてないなか、多くの人目に触れる機会をどうすれば増やせるか、事務局が頑張ってくれています。そのうちの 하나가、後でふれるTGCとのコラボです。

4) 女子スポーツのキャリア化

ゴルフを除く他のスポーツでも女子スポーツはキャリア化ができていく状況です。生活を支えるだけの収入が得られ、キャリアとしてバスケット人生を目指せるように環境を改善しなければなりません。選手の移籍制度の改革もその取り組みの一環です。

日本の女子バスケットボールの強化について先ほども述べましたが、今シーズンからWリーグが積極的に取り組むことにした内容を申し上げておきたいと思ひます。

それは、トム・ホーバスヘッドコーチの要請もあってのことですが、日本代表チームの更なる強化を目指して、その練習期間を少しでも多く取るために、リーグの日程を変更し試合数も減らしたことです。以前は、なかなかこういうことができませんでしたが、女子日本代表の活躍と更なるレベルアップに対して、最近では各チームが大変協力的になりました。Wリーグのレベルアップが代表チームに貢献し、代表チームでの経験がリーグに刺激を与えるという、非常に良い循環ができつつあります。

このことは、JBAと協力しながら女子日本代表、ひいてはWリーグ全体のレベルアップを目指す棲み分け型の作戦で、必ずや好結果をもたらすものと信じています。

これらをもって2018年にスペインで開催されるワールドカップや、2020年の東京オリンピックへの糧にしたいと考えます。

今シーズンから、新たに就任した女子日本代表のヘッドコーチ、トム・ホーバスさんは、ワールドカップでは何らかのメダルを獲得し、東京オリンピックでは金メダルを獲得することを目標にすると宣言していますが、なんとも頼もしい限りです。

不足がちだった広報活動強化として、先ほど申し上げたように、今年からネット上で全試合を無料で見られるよう、配信サービスを行うことにしました。特に若年層を対象としたこの対応策は、観客動員にも好影響を与えるものと期待しております。

女子バスケットボール競技人口の多さや、女子日本代表の国際的な強さを一般の方々に十分アピールできていなかったことを反省して、これら方策に取り組んでいます。これが奏功することを願っております。

2020東京オリンピックへ向けて、女子バスケットボールのエンターテインメント性を高めるための企画の第一弾が、今年12月に東京大田区体育館で開催されるオールスター戦です。

このオールスター戦では、女子中高生に圧倒的に人気がある、TOKYO GIRLS COLLECTION (TGC) とコラボレーションする新たな企画を盛り込み、ファッション的な要素を含んだ「女バス・百花繚乱」の大イベントになります。

TOKYO GIRLS COLLECTION は今や国際的にも知名度の高いファッションショーで、その経済効果は抜群です。この取り組みは、新たなファン層の掘り起こしに必ずつながるものと確信しております。

【1本目】オールスターゲームを東京で初開催！

過去2年で計5,000人以上を動員した女子バス最大の人気コンテンツをいよいよ東京にて開催します。

W LEAGUE オールスターゲーム 東京・大田に集結!

2017.12.16 (sat) 12:00 start!

女バス・百花繚乱

TOKYO GIRLS COLLECTION by GIVENCHY

J★DeeZ by GIVENCHY

女子中高生に圧倒的な支持を受けるガールズイベントと初のコラボレーションを実現いたします!!

Wリーグ初の試み「公式応援ソング」を初お披露目！CDリリースも予定

ターゲットエイジの新たなファン層の開拓

18

以上日本の女子バスケットボールとWリーグについてお話してまいりましたが、まだまだ発展の可能性があるWリーグをぜひとも応援してくださいませようお願いして終わらせていただきます。

和やかな交流会

講演会終了後同じ会場で開催された交流会には、講師の斎藤さんやWJBL専務理事の西井さんをはじめ多数の方々が参加し、和やかなうちに女子バスケットボールの話題が主体となった。

佐室会長挨拶



本日はお忙しい中WJBLの斎藤会長にお越しいただいて、実のある講演をいただき誠に有難うございました。

ここに出席された方々は健康だからこそ、このような話を聞くことができるとともに交流会にも参加していただけたとお慶び申し上げます。

男子Bリーグも順調に推移しているようですし、国際的に活躍されている女子と相まって日本のバスケットボールに明るい将来が見えてきたように感じております。

本日はお互いに胸襟を開いてご歓談下さいますよう乾杯しましょう。





「AKATSUKI FIVE」男子日本代表 世界への挑戦

F I B Aワールドカップ 2019 アジア地区予選

[編集部]

オリンピック予選の開始となる「F I B Aバスケットボールワールドカップ 2019 アジア地区 1次予選」が、本年11月23日からホーム&アウェー方式で開催される。この予選には、8月にレバノンで開催されたF I B Aアジアカップ 2017 に参加した16チームが出場する。

男子日本代表（F I B A世界ランク50位）は、7月20日に来日したフリオ・ラマスヘッドコーチを迎え、8月のF I B Aアジアカップ 2017 に臨んだ。この大会で日本は、グループC 3位の韓国に苦杯を飲まされて、決勝トーナメントに進出できずに終わり、優勝のオーストラリア以外のアジア地区上位チームと対戦しなかった。

ちなみに、8月のF I B Aアジアカップ 2017における成績順位は下記の通りである。

1位 オーストラリア（9位）	5位 中国（24位）
2位 イラン（22位）	6位 レバノン（53位）
3位 韓国（34位）	7位 フィリピン（30位）
4位 ニュージーランド（27位）	8位 ヨルダン（43位）

*（ ）内はF I B A世界ランキング順位。以下も同じ。

日本協会（J B A）は、この11月8日に11月対戦の2試合における日本代表候補選手の予備登録メンバー24名（下記）をコーチングスタッフと共に発表した。

最終メンバー12名は、今回の24名の中から大会直前（予定）に決定され、本誌がお手元に届くころには2試合の結果も確定するはずであり、好成績を祈念するばかりである。

<コーチングスタッフ>

役 職	氏 名	所 属
ヘッドコーチ	フリオ・ラマス	日本協会
アシスタントコーチ	エルマン・マンドーレ	日本協会
アシスタントコーチ	佐古 賢一	日本協会

<選手>

選手名	所 属
アイラ・ブラウン	琉球ゴールデンキングス
太田 敦也	三遠ネオフェニックス
竹内 公輔	栃木ブレックス
竹内 譲次	アルバルク東京
川村 卓也	横浜ビー・コルセアーズ
古川 孝敏	琉球ゴールデンキングス

選手名	所 属
小野 龍猛	千葉ジェッツ
橋本 竜馬	シーホース三河
篠山 竜青	川崎ブレイブサンダース
中西 良太	熊本ヴォルターズ
金丸 晃輔	シーホース三河
辻 直人	川崎ブレイブサンダース
比江島 慎	シーホース三河
熊谷 尚也	大阪エヴェッサ
宇都 直輝	富山グラウジーズ
永吉 佑也	京都ハンナリーズ
田中 大貴	アルバルク東京
張本 天傑	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ
安藤 誓哉	アルバルク東京
富樫 勇樹	千葉ジェッツ
馬場 雄大	アルバルク東京
平岩 玄	東海大学2年
西田 優大	東海大学1年
田中 力	横須賀市立坂本中学校3年

※ 所属は 2017 年 11 月 8 日現在

F I B Aバスケットボールワールドカップ 2019 アジア地区予選には1次と2次があり、1次予選参加の16チームが各4チームのグループA～Dに分かれ、各グループの上位3チーム、合計12チームが2次予選に出場できる。

日本は、1次予選でグループBに属し、緒戦、11月24日（金）に東京都駒沢体育館でフィリピンと対戦する。このグループのチャイニーズ・タイペイ（57位）には8月に87-49で勝利しているため、2次予選への進出は問題ないであろう。それまでに、アジア地区だけでなく世界の強豪チームと対戦し、経験を積んで上位進出を確実にしたいところだ。

日本が入るグループBで、上位3位以内のチームは、2次予選でグループD上位の3チームと組んでグループEとして対戦する。グループDにはアジアカップ 2017 で2位のイランが含まれる。グループDのイラン以外のチームはイラク（85位）、カタール（66位）、カザフスタン（74位）で、これらのチームには確実に勝利して欲しい。したがって、1次予選でのオーストラリア、フィリピンと、2次予選でのイランとの強豪3チームの一角を破り、グループE 3位以内を確保したい。別のグループFには中国以外に、アジアカップ 2017 の同一グループで得失点差を競ったニュージーランド（27位）、韓国（34位）、レバノン（53位）が入るので、グループEで4位の場合、上位7位以内に滑り込むのは難しい。いずれにせよ、男子日本代表チームにはディフェンスからの積極的なオフェンスで強豪チームを撃破することを期待したい。

上位7位目、グループE、Fでのベスト4位の選定手段が不明確なので気にかかる。

* 上記のF I B A世界ランキングは2017年10月11日更新のもの

<アジア地区 1次予選>

開催期日

- ・2017年11月23日(金)～11月27日(月)
- ・2018年2月22日(木)～2月26日(月)
- ・2018年6月28日(木)～6月2日(月)

開催地・競技方法 各グループ内でのホーム&アウェー方式(各チーム6試合)

出場チーム 16チーム(下記組合せによる)

組合せ

【グループA】中国、ニュージーランド、韓国、香港

【グループB】日本、チャイニーズ・タイペイ、オーストラリア、フィリピン

【グループC】シリア、レバノン、インド、ヨルダン

【グループD】イラク、カタール、カザフスタン、イラン

※各グループの上位3チーム、計12チームが2次予選に進出する。

日本戦の試合日程

[ホーム] 2017年11月24日(金) vs フィリピン

会場：駒沢体育館(東京都世田谷区)

[アウェー] 2017年11月27日(月) vs オーストラリア

[ホーム] 2018年2月22日(木) vs チャイニーズ・タイペイ

会場：横浜国際プール(神奈川県横浜市)

[アウェー] 2018年2月25日(日) vs フィリピン

[ホーム] 2018年6月29日(金) vs オーストラリア

会場：千葉ポートアリーナ(千葉県千葉市)

[アウェー] 2018年7月2日(月) vs チャイニーズ・タイペイ

<アジア地区 2次予選>

開催期日

- ・2018年9月13日(木)～9月17日(月)
- ・2018年11月29日(木)～12月3日(月)
- ・2019年2月21日(木)～2月25日(月)

開催地・競技方法 各グループ内、未対戦チームとのホーム&アウェー方式

(未対戦チームは1次予選で異グループの3チームであり、各チーム6試合)

出場チーム 12チーム(1次予選グループA～Dそれぞれの上位3チーム)

組合せ

【グループE】1次予選のグループA・Cそれぞれの上位3チーム、計6チーム

【グループF】1次予選のグループB・Dそれぞれの上位3チーム、計6チーム

※各グループの上位3チームと最上位4位1チーム、合計7チームがワールドカップに出場する。

※グループAの中国は開催地枠でワールドカップに出場する。

第93回天皇杯、第84回皇后杯

全日本選手権大会3次ラウンド

[編集部]

今回から大幅変更となった全日本選手権大会は、その3次ラウンドが11月25日、26日に、全国8会場で開催される。その組み合わせは次頁以降の通りで、この3次ラウンドを勝ち上がった男女各8チームが、2018年1月4日から7日まで、さいたまアリーナで開催されるファイナルラウンドへ出場し、覇権を争う。

従来の大会と比べて変更になった点を下記するが、今大会は基本的にこれまでカテゴリ一別に与えられていた出場枠が撤廃され、1次ラウンドから3次ラウンドまで開催される予選ラウンドを勝ち上がったチームのみがファイナルラウンドに出場する仕組みとなった。

1次ラウンド

各都道府県別に4月から開催され、その都道府県に登録されているチームが出場でき、トーナメント方式による勝ち上がり方式。

男子においてはB3クラブ、実業団、クラブ、教員、大学、高校、高専、専門学校、その他一般のチーム。

女子では、実業団、クラブ、教員、大学、高校、高専、家庭婦人、専門学校、その他一般のチームとなっている。

男女とも2次ラウンドへ進出できるのは、レベルや登録チーム数に関係なく、都道府県ごとに1チームのみで、9月3日までに終了。首都圏などでは厳しい競争となった。

2次ラウンド

9月16日から18日まで、東日本エリア、中日本エリア、西日本エリアと全国を3エリアに分けて開催、いずれもトーナメント方式で行われた。

男子では1次ラウンドを勝ち上がったチームにB2クラブが加わり、女子では1次ラウンドを勝ち上がったチームによって争われた。開催地と出場チーム数は下記のとおり。

東日本エリア 北海道釧路市で開催

<男子> 北海道～山梨の都道府県代表15チームとB2クラブ6チーム

<女子> 北海道～山梨の都道府県代表15チーム

中日本エリア 富山県黒部市で開催

<男子> 長野～和歌山の府県代表15チームとB2クラブ6チーム

<女子> 長野～和歌山の府県代表15チーム

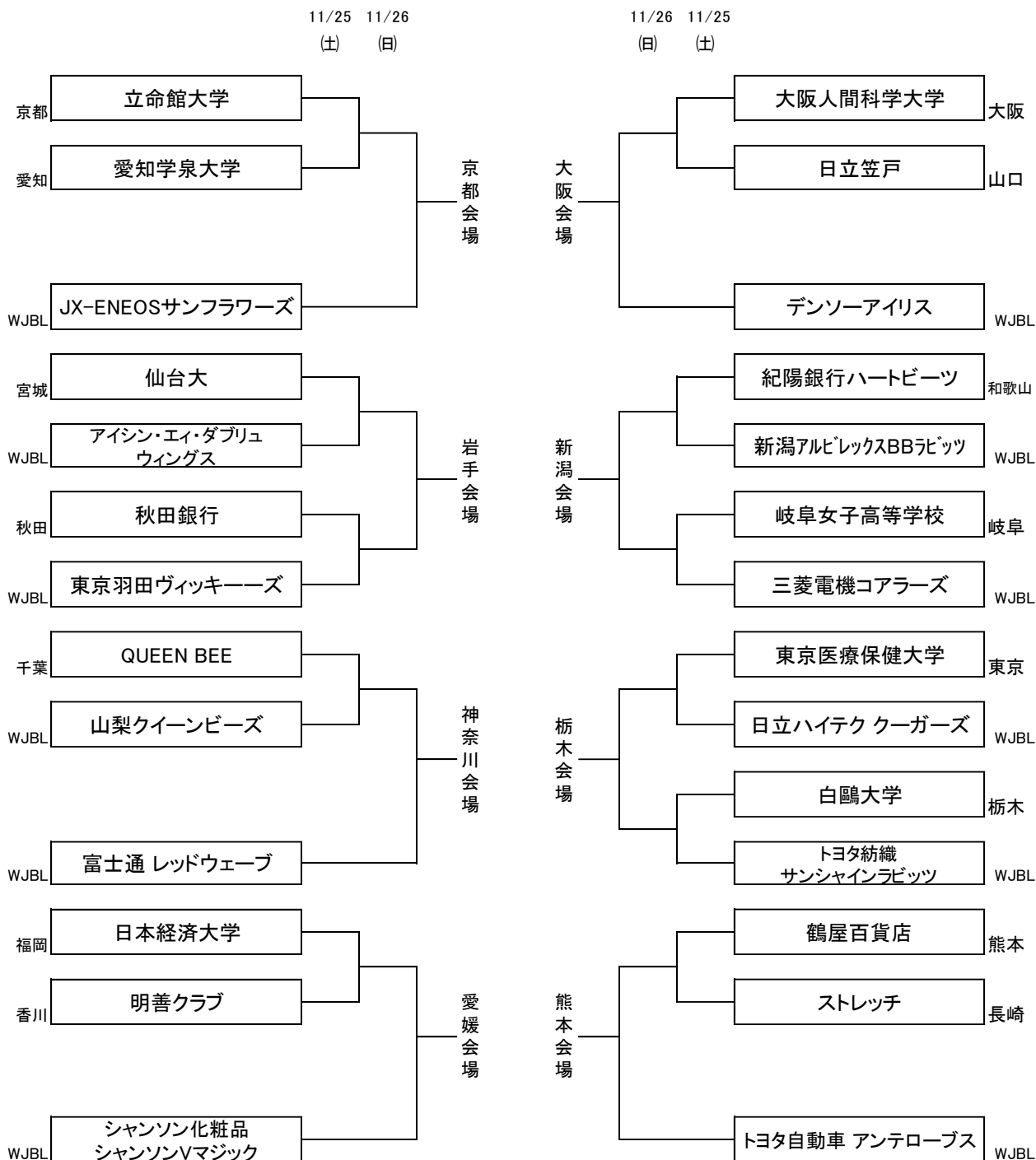
西日本エリア 大分県中津市で開催

<男子> 鳥取～沖縄の県代表17チームとB2クラブ6チーム

<女子> 鳥取～沖縄の県代表17チーム

上記の結果、男子13チーム、女子15チームが3次ラウンドへ進出し、これに男子はB1クラブ18チーム、女子ではWリーグ12チームが加わって次頁以降の組み合わせにより、全国8会場で3次ラウンドが開催され、各会場での勝ち上がりチームがファイナルラウンドへ出場する。

3次ラウンド 【女子】組み合わせ表



岩手	盛岡タカヤアリーナ (盛岡市)	京都	島津アリーナ京都 (京都市)
栃木	栃木県立県北体育館 (大田原市)	大阪	堺市金岡公園体育館 (堺市)
神奈川	トッケイセキュリティ平塚総合体育館 (平塚市)	愛媛	今治市営中央体育館 (今治市)
新潟	新潟市東総合スポーツセンター (新潟市)	熊本	熊本県立総合体育館 (熊本市)

世田谷区中学生初心者向けクリニック

[総務部・普及部]

7月28日(金)、世田谷学園体育館で世田谷区中体連バスケットボール部の主催、振興会協力による中学生初心者向けクリニックが開催された。

当日は、男子は区内の10校から79名、女子は6校から40名の参加者を得て、当会会員の桑田健秀氏、元エバラヴィキーズの水澤春奈氏に講師を委嘱。

約2時間半にわたり、モチベーションアップを狙いとしたクリニックが実施された。

<桑田講師と水澤講師によるクリニックの概要>

I 桑田講師による座学

以下のような内容を生徒に向けて話してもらった。

- ・ 中学3年間、夢をもとう
- ・ 良い指導者を見つけよう
- ・ 両親や保護者への感謝の気持ちを忘れずに
- ・ 2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて特に障害を持つパラリンピアン、多くは生死をさまようような世界を体験してきており、それを乗り越えるのに、どれほど苦勞してきたかにつき、思いを馳せてほしい

また、身近なところで障害を持つ友人のことを理解してあげてほしい



桑田講師による座学

II 水澤講師による実践練習

- ・ ランニング、ストレッチ(特に股関節)
- ・ 9~10人が一つの輪になって右・左周りの移動により、アイスブレイキングの意味合いと一人が間違えると他のメンバーに迷惑がかかることを体感してもらうのが狙い
- ・ 2人1組でルーズボールの練習
- ・ ボールハンドリングの基礎練習
- ・ ボールキャッチの基礎練習
- ・ ドリブルの基礎練習



水澤講師指導によるアイスブレイキング



水澤講師指導によるドリブル基礎練習

Ⅲ 桑田講師によるシュート練習

シュート練習（フリースローレーンから）

- ・ どのようなフォーム、投げ方が一番シュートの確率が高くなるかを意識して練習すること
- ・ ボールを中心に腕と肩で正三角形を作るイメージ、手は親指と人差し指で「ハ」の字を作るイメージで、手のひらはボールにつけない、つま先はゴールに向けて上半身は少し前傾でつま先に重心を。そして、足の力が正しく腕に伝わることを意識して 少しずつ体で覚えてほしい
- ・ シュートはバスケットの醍醐味、正しいフォームを覚え、そして、決めるつもりで打つこと
- ・ シュート上達にはボールのつかみ方、ボールの位置、足の使い方が大事

そうかなと気づいたことを思い出して、明日からの練習で実践してほしい



桑田講師によるシュート模範演技

あとがき

今回は、本クリニックに先立ち開催した先生方との懇談会でのご提案を踏まえ、夏休み期間中に実施することになった。その結果、男子では10校から79名、女子は6校から40名と過去最多の参加があった。

練習の最後に、30分程度であるが、男女別にチーム分けしてお楽しみゲームも行ったが、1年生だけ、特に初心者だけでゲームをする機会はほとんどなく、加えて初対面の他の学校の生徒とチームを組むことは、初めての経験であり、最初は戸惑いも見られたが、最後には和気あいあいとプレーしている姿が印象的であった。

また、昨年までは本クリニックを入部直後の5月に実施していた為、プレーにぎこちなさが散見されたが、今回は、入部して3か月超経っており、それなりに形になっていた。

今回の開催に当たって、世田谷区中体連の専門委員である世田谷学園の古見先生には会場の手配、参加生徒の募集等々で大変お世話になった。また、同学園の2年生6名には、お楽しみゲームの審判や、TOをボランティアも担当してもらった。誌面を借りて謝意を表したい。

今回も7校から顧問の先生に付き添い頂き、2校からは保護者4名の皆様に見学頂いた。併せて謝意を表したい。

日本で初めて開催された国際競技大会

— 100年前の第3回極東選手権競技大会—

[普及部]

極東選手権競技大会は、マニラ（フィリピン）で1912年（大正元年）に始まり、1934年（昭和9年）の第10回まで続いたもので、第3回は日本で開催され、これが日本で初めての国際競技大会となった。ここに、この大会創立の経緯と第3回日本開催の状況について資料が得られたので報告する。

極東選手権競技大会は、1912年に、フィリピンYMCAの体育主事だったエルウッド・S・ブラウンが提唱して始まった大会である。

フィリピンは、スペインの植民地だったが、1898年の米西戦争の結果、アメリカ合衆国が統治することとなった。アメリカは、フィリピン人の一体化、親米化のためにスポーツを奨励しており、1908年には「カーニバル大会」という全国競技会を始めていた。

1910年フィリピンYMCAに赴任したE. S. ブラウンは、元イリノイ大学バスケットボールチームのコーチをしていたスポーツマンだったので、このカーニバル大会を、規約などを整え、本格的なスポーツ大会として開催した。

1909年（明治42年）のマニラ（フィリピン）で開催されたカーニバルの時から、この期間中に競技を行うことになった。1911年（明治44年）、アメリカのYMCAから派遣されたE. S. ブラウンの努力によって設立されたフィリピン体育協会の主唱で、1912年（明治45年）2月に、早稲田大学の野球チームとテニスの朝吹常吉、山崎謙之丞、横浜に住んでいたチャプマンなどの選手が招待されている。

E. S. ブラウンは、オリンピックにならって東洋の各都市で隔年に東洋オリンピック大会ともいふべき競技会を開催するために、日本、フィリピン、中国の三カ国で、まず極東体育協会を組織したいと考え、1912年9月に来日した。その際、E. S. ブラウンは、大日本体育協会に極東体育協会を組織するための原案を示し、1913年（大正2年）2月マニラのカーニバルを機として開催することとした第1回東洋オリンピック大会に日本の参加を要請した。

第1回 東洋オリンピック大会（第2回以降呼称変更）

1913年2月1日～9日 マニラ（フィリピン）

カーニバルの一環として開催され、同時に博覧会も行われた。せっかくの要請にもかかわらず、前年オリンピック大会に初めて参加した日本は選手を派遣せず、明治大学野球チームと大阪毎日新聞が選んだ陸上競技の2選手が参加したのみであった。この大会では、陸上競技、野球、自転車競技、水上競技、テニス（単）（複）、バスケットボール、バレーボール、サッカーなどの競技が行われた。

第2回 極東選手権競技大会

1915年（大正4年）5月15日～19日 上海（中国）

この大会から「東洋オリンピック大会」という呼称を「極東選手権競技大会」と改め

た。この大会は上海虹口公園で行われ、日本から陸上競技、水泳、テニスに選手が派遣された。この大会では、陸上競技、水上競技、自転車競技、テニス（単）（複）、バスケットボール、バレーボール、サッカー、野球などの競技が行われた。

第3回 極東選手権競技大会

1917年（大正6年）5月8日～12日 東京（日本）

第2回大会終了後、6月に来日したE. S. ブラウンは、嘉納治五郎会長（大日本体育協会）（当時）と会見、2年後の第3回大会を日本で開催するように要請した。日本は、せっかくの要請なので、1回だけ日本で大会を開催することとし、日本の要求を入れた規則に後日改正することを条件に開催を承諾した。大会は、大正6年5月8日から5日間、東京芝浦埋め立て地で開催された。競技の会場となった場所は、隅田川の浚渫汚泥を用いて明治の末から大正の初めにかけて造成されたばかり土地であり、現在の東京都港区海岸2丁目日之出棧橋であり、遊覧船発着場所の「日の出棧橋」である。この大会の役員を列挙する。

名誉会長 大隈重信、会長 嘉納治五郎、
第一副会長 武井千代三郎、第二副会長 岸清一、
秘書 E. S. Brown、常任秘書 F. H. Brown、
常任委員会 嘉納治五郎、岸清一、朝吹常吉、林愛作、阿部磯雄、今村次吉、
永井道明、峰岸米造、F. H. Brown

日本で初めて開かれる国際的な競技会ということで、国を挙げてその準備にとりかかった。会場は現在の東京芝浦の日の出棧橋付近で下記4会場が開設された。

- ① 第一会場は、一周440ヤード（400m）の陸上競技場でバレーボール、バスケットボールもここで行われた。
- ② 第二会場は、その北側で野球とサッカーの競技場
- ③ 第三会場は、西側の離れたところの海水の掘割を止めた水泳場
- ④ 第四会場は、テニスのコート二面

当時、日本のバスケットボール界で代表チームを編成できるのはYMCAのチーム以外になく、代表決定戦が1917年3月14日京都YMCAと神戸YMCAとの間で行われた。この試合で京都YMCAが54-14の大差で神戸YMCAに勝利し、日本の代表チームとなった。

バスケットボール日本代表の京都YMCAチームは選手7名中3名がバレーボールの選手を兼ねていた（梶谷久選手の「第3回極東選手権大会参加の記念証」は、日本体育協会・資料室にご遺族より寄贈され保管されている）。

陸上競技やバレーボールもおこなわれた第1会場は、周囲に15段のスタンドがあり、約4,000人の収容力があつた。そして、コートは板張りの屋外コートで、大会2日目の明け方に大雨があつた。その日の午後、雨は止んだが、強風が吹き荒れて、バレーボール競技が一時中止になるほどであつた。3日目も強風が吹き、4日目の午後には雷雨があつた。悪天候のため、コートの板と板の継ぎ目に大きく口が開き、板が反り返って負傷者が出て大急ぎで張り替えることもあつた。

水泳、野球、テニスなどの快勝に比較して、初参加のバレーボール、バスケットボール、サッカーなどは、技術の差が歴然として惨敗した。陸上競技にヤード制を採用したり、スタートの合図に英語を使ったりの大騒ぎで準備が進められた。芝浦埋め立て地に急造された競技場は、雨が降るとぬかるみ、5月だというのに寒風が吹きまくり、砂が飛ぶというお粗末なものであった。名誉会長の大隈重信が開会式で祝辞を述べていた際、一陣の風が吹きシルクハットを吹きとばすというアクシデントもあった。

バスケットボール日本代表（京都YMCAチーム）は、村上正次（マネージャー）に、佐藤金一（キャプテン）、石田孝清、梶谷久、加藤誠一、岡林武一郎、大久保利彦、山本錦次郎の選手7名である。対戦結果は、5月9日：フィリピン 38—17 中国、5月10日：中国 35—16 日本、5月11日：フィリピン 39—14 日本となり、フィリピンが2勝で優勝し、日本は全敗の最下位であった。

この大会は、1934年（昭和9）マニラ（フィリピン）で開催された第10回大会まで続いた。

（敬称省略）

（付録記事）

下記参考文献から記事を引用する。

**1917年、日本で初めて開催された国際競技大会の会場は、
現在の東京都観光汽船の発着駅「日の出棧橋」**

「第3回極東選手権競技大会会場全図」にある競技場のある場所は、近くに東海道線が走る当時の「芝浦埋め立て地」で、大正9年の地図と比較すると全く同じ形である。現在のJR「浜松町」駅、新交通ゆりかもめ線の「日の出」駅近くの「日の出棧橋」は、今も当時の競技場の形を十分思い起こすことができる。また、2020年に開催予定の東京オリンピックの会場となる新国立競技場と同じ港区にある。

「日本のバスケットボールチームが参加した初めての国際競技大会」は、100年前に開催された第3回極東選手権競技大会であり、初めての日本代表チームは「京都YMCA」である。

（参考文献）

日本体育協会五十年史（日本体育協会）

日本体育協会七十五年史（日本体育協会）

バスケットボールの歩み・日本バスケットボール50年史

（日本バスケットボール協会）

国立競技場の100年（後藤健夫・ミネルバ書房）

20世紀日本文明史・体育50年（竹之下休蔵・時事通信社）

バスケットボール物語（水谷豊・大修館書店）

バスケットボール発祥の地と京都との絆

発祥の地で学んだ日本人の国内普及活動

[普及部]

1891年12月、米国マサチューセッツ州スプリングフィールドの国際YMCAで「バスケットボール」の競技が初めて行われたことは有名である。J. ネイスミスによって考案されたバスケットボールの初めて行われた競技チームに石川源三郎という日本人が参加していたことも知られている。

去る2017年8月、当振興会事務所を訪問された社団法人京都府バスケットボール協会児玉幸長会長が、本年6月にスプリングフィールド大学から友好の絆を確認する楯を受けたことのお知らせと資料を頂いたので、その経緯を報告する。

1907年スプリングフィールドYMCAを卒業して東京YMCAの体育主事に就任し、バスケットボールを指導した大森兵蔵と、1911年スプリングフィールド大学を卒業して神戸YMCAの総主事を務め、バスケットボールの競技規則を初めて日本語に翻訳した宮田守衛との日本人留学生がいる。この二人が、帰国後、日本のバスケットボールの普及に大きな役割を果たしている。

1913年(大正2年)、米国YMCAのF. H. ブラウンが京阪神と東京で指導している。同年のフィリピン・マニラで開催の第1回東洋オリンピック大会には、バスケットボール競技も含まれていたが、当時の状態ではその招待に応じることができなかった。

1914年、ウィスコンシン大学でバスケットボールを経験した佐藤金一が、旧制京都府立一中(現洛北高)の教諭に就任して京都YMCAの運動部を知り、バスケットボール競技を導入した。これが、前述の大森兵蔵、宮田守衛などを通じ、スプリングフィールドの地と日本の京都YMCAとバスケットボールの絆を有することとなり、京都を日本でのバスケットボール発祥の地とする根拠となっている。

翌1915年、佐藤金一が中心となり、F. H. ブラウン指導のもと、京都YMCAのチームが結成された。佐藤金一以外の選手は京都YMCAで初めてバスケットボールを始めた人々の集まりであった。1917年、第3回極東選手権競技大会に日本は初めて参加した。日本の代表チームは、神戸YMCAチームに勝利した佐藤金一主将率いる京都YMCAチームである。残念ながら力の差は歴然としており、フィリピン、中国に負けて第3位であった。

この10年後、1924年には、現在の京都府バスケットボール協会の前身となる「京都籃球協会」が発足した。

2014年は京都のバスケットボール導入の年から100年を経過したこととなる。これを記念して、7月、バスケットボール発祥の地であるマサチューセッツ州のスプリングフィールド大学チームが来日し、大学生を中心とした日本代表チームと国際親善試合を行った。

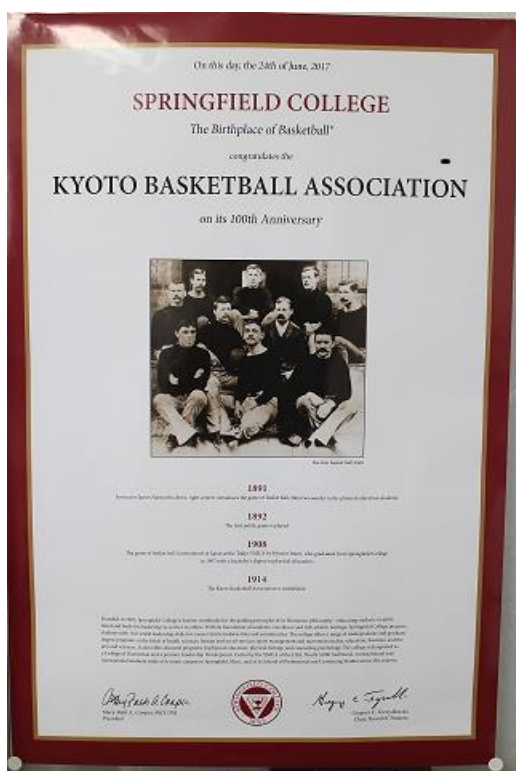
これを機会に、京都府バスケットボール協会は京都YMC Aの敷地内に日本のバスケットボール「発祥の地」を記念したモニュメントを設置し、7月19日に除幕式が行われた。



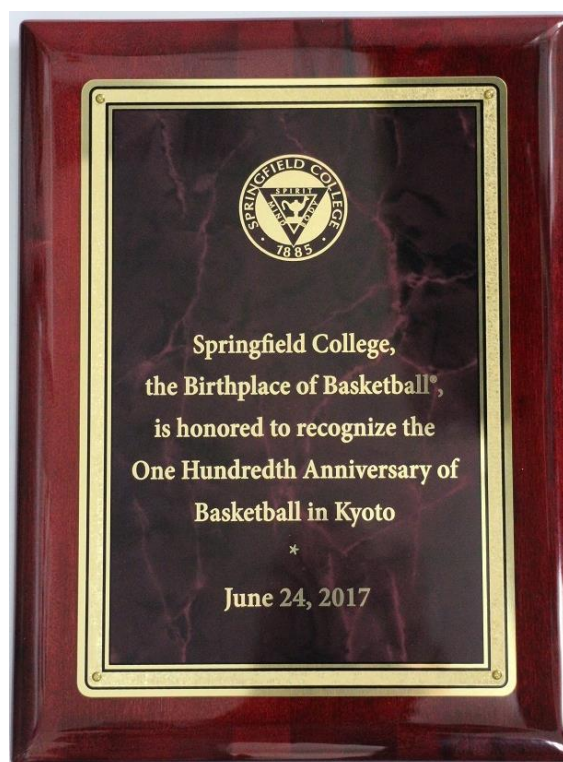
モニュメント除幕式・テープカット風景

この度、兒玉幸長会長から紹介を頂いた「誕生 100 年を祝福するポスター」と「京都の誕生 100 年・友好の絆を確かめる盾」は、本 2017 年 6 月 24 日付けで、スプリングフィールド大学から京都府バスケットボール協会に贈られている。

(敬称省略)



誕生 100 年を祝福のポスター



誕生 100 年・友好の絆の盾

<参考資料>

(先賢の発音／兵庫県バスケットボール協会 昭和 60 年 6 月 1 日発行)



日本バスケット・歴史の一コマ

— 畑龍雄先生と旧制成蹊高校の全日本総合制覇 —

鹿子木 基員

—はじめに—

心機一転誕生した日本の本格的プロ・バスケットBリーグの2016-2017シーズンは、日本男子バスケットの象徴である田臥選手を軸とした栃木ブルックスが初代王者に輝いた。田臥選手が能代工高でインターハイ3連覇を果たしたころからフォローしている私にとって先ずはめでたしである。今、私がバスケットを楽しむ対象は、母校のバスケット部の応援だったり、昔の職場仲間との団らんだったりだが、プロとは遠く離れた底辺の活動も、Bリーグからの影響を受けて活発になっていくようで嬉しい。

戦後間もない1940年代の後半、武蔵中学・高校で、畑龍雄先生から、「へばったら頑張れ」のキーワードのもとで、「バスケットは**ダマシク**だよ」と教わり、「動く時にはノーモーションで」と指導され、いろいろな身体の使い方の厳密な習慣づけのための反復練習をした。「練習とは身体の使い方の習慣づけのための活動だ」と教えられ、「上体を起こして、膝を柔らかく屈伸」の習慣づけに常時余念がなかった。ゲーム練習中は、しばしば動きを止められて「いまどこを見ていたか?」「何をするつもりだったか?」と聞かれて答えているうちに、「瞬間しゅんかんはどこを見るか、なにをするのか」が、何をするにもとても大事なことが分かってきた。いまは、歳を取って、分かっても動けないが、見たり考えたり、人に伝えることが楽しい。

1949年にハワイの邦人チームが来日して、日本のトッププレーヤー相手に、華麗なプレーを見せたとき、次の春休みの練習から、シュート、パス、ドリブルの練習方法がガラッと変わり、多様な動作をこなす練習が始まった。バスケットを始めたばかりの中学生が、畑先生の下でその革命的な瞬間を経験した。貴重な経験だった。私は、高校時代に毎年インターハイ参加、大学では東京工業大学で二部だったが、地方の学校のバスケット部を指導した。就職した九州の工場ではチームをつくり、九州代表として全国大会にも出場した。

その間に、最初から舌を巻くほど印象付けられていた畑先生の観察眼の偉大さに対する畏敬の念は深くなるばかりだった。今、83歳になっても、母校の現役チームを応援する機会は少なくないが、いつも、畑先生の観察眼と教え方の半分でも自分のものにするのを目標に、見るのが楽しみでもある。

バスケットのゲームは、年々、激しくなっている。チームで協力して行う攻撃的なデフェンスを初めて米国から取り入れたのは畑先生だが、防御がますます攻撃的になっている昨今である。一方、各プレーヤーの特徴を生かした上で連携も使って攻めるオフenseについては、畑先生が指摘したように、シュートする力とパスやドリブルその他の攻撃技術とを分けてそれぞれを磨くことが重要で、決め手であるシュートする力は益々个性的に発展していく時代である。練習の方法、プログラムや時間割も対応して進化して行くが、千差万別の個人の特性を最大限生かしていくための練習法や指導法、その為の環境整備が求められているようだ。

会員だより

－畑龍雄先生の驚くべき観察眼と旧制成蹊高校の快挙－

今は、日本で、プロ・バスケットが定着する歴史的な時期なので、バスケットの歴史の一コマ、1931年（昭和6年）第10回全日本選手権大会で、旧制成蹊高校が早稲田大学等の強豪を破って初の王者になった快挙に焦点を当ててみる。さらに、その頃バスケットに取り組み始め、その成蹊の快挙から多くを学んだ武蔵高校バスケット部の畑龍雄少年と周辺の人たちの活動について、知る範囲で紹介することにしたい。

1891年に米国で始まったバスケットボールが、YMCAを通じて日本に伝わったのは1908年と言われている。旧制成蹊高校では、学校創立間もない昭和初頭（1928年）に東京商大卒業生をコーチに招聘、化学の岩永源作教授が部長に就任、活発な活動を始めた。成蹊バスケットボール部50年史（1981年発行）によれば、「東京商大、一高（第一高校）、慶応大、東京高校、成城高校と練習試合を行い、第3回全国高校選手権の優勝を目指し、速攻一本やりで行く方針で、ガードがリバウンドしたボールをドリブルしないで止めずに前の3人に送ることだけに集中して1ヶ月間練習し、優勝候補の八高（第八高校）、甲南（甲南高校）、水戸高校を連覇し決勝戦まで進出し、東京高校に22-16で惜敗した。」と書いてあることなどから、筋の通った練習をした様子が分かる。〔（）内高校名は筆者補足〕

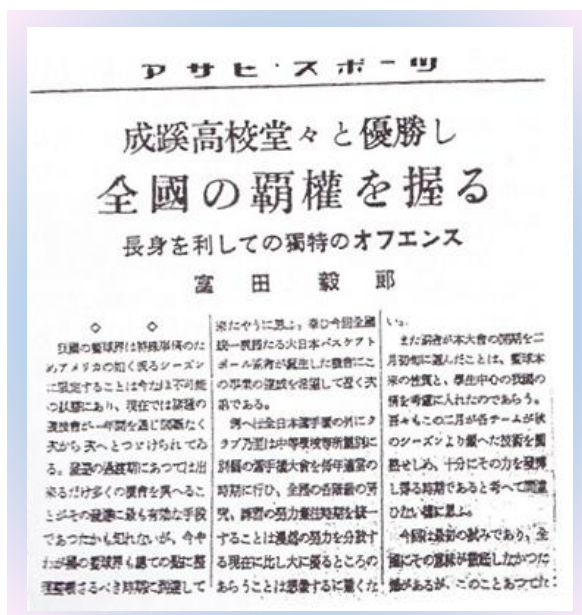
その後、1929年、1930年と全国高校選手権を連覇、1931年には、東京予選で立教大学を破り、神田YMCAコートで行われた全日本籠球選手権決勝で早稲田大学を破って高校（旧制）チームが全国制覇する快挙を達成した。その時のメンバーには、ベルリン・オリンピックの日本バスケットボールチームの主将を務めた田中秀次郎（通称デンチュウ）をはじめとした強力なメンバーがいた。決勝戦は前半終わって20-13でリード、後半1点差まで追いつかれたが突き放して37対29で優勝した。

その記録の一部を紹介しよう：

全シーズン以来連戦連勝の成蹊高校チームは東京予選において大学リーグの覇者立大を破り、今また大阪外語、京大の両雄を粉砕し、昇天の勢いを駆って遂に早大に対し最後の戦いを交えて一気に画期的な選手権制覇を決定しようとしている。・・・中略・・・

（後半スタートの描写）スピーディーなショートパスとフットワークに独特な攻撃を開始せる成蹊は30秒にして金子左より野投を加えて差9点となる。早大も森沢をベンチに休ませ阪上を入れて新たに陣容を固め元気に攻め立てるも成蹊よくマークしてシュート機会を与えず。土肥焦って猛然ドリブルに抜きゴール間近でシュートに移るとき亀山ファールして2スローを許し、土肥二つとも失した後4分早大アウトのボールを阪上左コーナーより野投して漸く成り22-15と追う・・・

と詳しい描写が微笑ましい。



会員だより

一方の畑先生は、1923年武蔵高校尋常科2年に編入してバスケットを始めた。6年生のとき関東高校リーグに参戦したが全敗だった。インターハイの東京予選でも2回戦で成蹊に敗退したが、畑先生らのチームメートは、成蹊を始めとする先進校のバスケットを観察研究し、翌年の関東リーグでは、10戦7勝で、成蹊に次ぎ2位の成績をあげた。

畑先生は、「米寿を祝う会資料」の中で書いている：

10戦10敗の結果のあと、やみくもに練習して翌年は7勝3敗で第2位に輝いた。この経験は大きな驚きであったが、同時に「とても勝てないと思われる相手との差が僅かなものである」ということを気付かせることになった。この時期にすでにあることをしつこく繰り返すことによって習慣にするのが練習であることに気付いた。何をすべきかについてはゲームを沢山見ることによって発見した。この時期の、これらの気付きは、その後のコーチとしての生き方の基礎をなしている。

畑先生は、旧制成蹊高校籠球部の創立10周年に際して、成蹊籠球会報創刊号（1936年11月30日成蹊籠球会発行）に「成蹊と私」を寄稿している。その中で；

成蹊がオール・ジャパンに優勝するまでの輝かしい期間は、成蹊より2年遅れて部としての活動を始めた私たち武蔵としても、成蹊が優勝した時10戦10敗の全敗で6位、翌年は第二位に躍進し次年度にはインターハイの決勝で成蹊に敗れるまですすめたという時期でもあった。この記録は非常に幸運に恵まれたものであったに違いないが、私自身の知る限りこの間の努力においては敢えて人後に落ちなかったつもりである。当時、全くコーチと言うものなしに進まなければならなかった私たちが、身近なよきチームであり、よき敵である成蹊から如何に多くのことを教えられたか到底数えられない。ボールを持ってコートに立てば目の前を成蹊のゾーンが踊る。本当にそうだった。言葉の綾なんかではない。だから帝大での会合で「田中より僕の方が成蹊のゾーンについて知っている」ととんでもないことを言って田中を困らせたこともある私だった。こうして成蹊、成蹊で練習を重ねて、公私の試合を交えるようになってからストレートで13回負け続けた。悔しいがどうしても勝てなかった。しかし、この恨み重なる敵は同時に私たちの最も敬愛する敵でもあった。（中略）最後になって恐縮だが、部長岩永先生によそながらかねがね懐く敬慕の気持ちを表示し末長くよき成蹊の指導者として間接的には私たちをもご指導くださらんことを祈る。

1931年の2月に行われた全日本籠球選手権で全国制覇の快挙を成し遂げた成蹊籠球部のメンバーと畑先生たちが成し遂げたエピソードがある。成蹊高校を初め武蔵高校、その他の高校のバスケット・マン達の多くは、卒業して、東京帝国大学の入試を受けたが不合格になって、浪人生活を余儀なくされた。成蹊OBとなった田中、井上らの有力プレーヤー達は、武蔵OBとなった畑先生ら、他校のOBも巻き込んで籠人クラブと言うチームをつくり、11月に行われた神宮大会（国体に相当）に出場し、早稲田大学の現役OB混合チームを接戦の末逆転して優勝した。武蔵高校は、ベルリン・オリンピックでセンターを務めた長身鹿子木健日子が参加して1933年にインターハイを初めて制覇した。籠人クラブの

会員だより

面々は、翌年の入試には合格して、東京帝大のバスケットの黄金時代を築くことになった。

－むすびに－

さて、最後になったが、私は、武蔵高校（新制）で3年間、インターハイ（第1，2，3回）に参加後、東京工業大学を経て三菱化成（今は三菱ケミカル）でバスケットを続け、今も、学校と職場のバスケット仲間と厚い交流をしている。通称7年制高校リーグでの同期の成蹊の方との交流が続いているが、大学の同窓会会長は前任者も後任者も成蹊高校の出身である。特に、前任者の岩永昭二（故人）さんは、岩永源作先生の長男で、成蹊高校バスケット部の部長も務められたそうである。

東京工業大学は、関東大学リーグの5部に位置しているが、ブロックの違う成蹊大学との交流が厚い。秋のリーグ戦では、両校ともブロック代表としてトーナメントに出場している。その交流を通じて伺ったところでは、成蹊学園では、今年、中・高・大学を総合した同窓会組織を立ち上げるとのことである。この組織立ち上げが今年の創立90周年を記念する行事の一角として計画されると伺って、明るい気持ちになった。



東京帝大 黄金時代 対成城高校
昭和10年全日本選手権大会の一コマ

大学でも、職場でも、バスケットが盛んに楽しまれ、バスケットが広く振興することを願っている。

（武蔵高校・中学OB）

<参考資料>

- 成蹊籠球会報（創刊号） 1936年11月30日発行 成蹊籠球会
- 成蹊バスケットボール部50年史（1981）
- 大日本バスケットボール協会資料 1931年10月第一巻No.2

会員だより



代々木から香港に～

— 振興会がつないでくれた縁 —

渋谷美由紀

10月13日より15日の予定で香港チームとの交流試合に行っていました。何故？いきなりの海外遠征の話が…戸惑いながらも振興会会員の川戸さん率いる男性チームと千葉の女性12名で参加してきました。

話の始まりは今年も大いに盛り上がった代々木シニア大会後の懇親会のあと。私はすでに宿に向かっていたら、携帯に連絡があり、渋谷で二次会をやっているからとのお誘い。戻ってみると川戸さん、安田川さん、千葉の女性3人。川戸さんをご紹介するまでもなく横浜チームの代表者。安田川さんはコートでもご紹介ありました今回香港から参加された方。いろいろとお話が弾んだ結果、香港での日本人のバスケットボール事情を伺い、その時は酔った勢いもあり冗談交じりに行きたいね！とお話ししておりましたが、徐々にみんなが予定表を出し始めると8月か9月と具体的になっていきました。

千葉の女性は、(優秀なことに)振興会の会員が7名、ともに千葉県家庭婦人連盟に所属、普段より交流もあるため、すぐにLINEでの香港遠征グループが出来上がり、安さん(すでに飲み会よりこの呼称で馴染んでしまっていました)に紹介された香港のひとみさんが加わり、LINEでやり取りしているうちに、ひとみさんより「先生?」、なんと千葉のメンバーに香港チームの方の先生がおりました。

それからひとみさんはじめ香港の方が体育館を手配して下さり、トントン拍子に決まり、私たちはパスポートの申請から航空機・ホテルの手配と夏初めにはすっかり盛り上がっていました。

チーム名は?いろいろな候補より千葉ならジェットだよね～ここも日頃からジェットのブースターやボランティアでかかわりのあるメンバーが多く、JETSを入れさせていただきます。

現地では朝早くから予約に並んでいただき、10月14日を予約していただき、13日金曜日からお邪魔することとなりました。

香港空港に着くと別便の男性陣と合流、安さんの手配していただいたバスでホテルへ。



12名で作ったLINEのグループ
代々木のシンボルがグループ画像

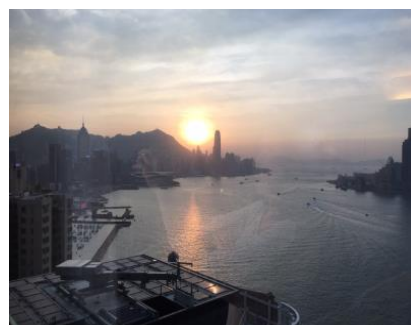


香港チームへのお土産

会員だより

早速、私たちは香港ならお仕事で慣れている振興会会員で男性チーム所属の渡辺さんをお願いし、地下鉄、バス、路面電車の乗り方を教授いただき、お買い物に繰り出しました。映画で見ている街並みを楽しみ、街中でもバスケット何面も作ってある公園があったり、ボールを持った小さな女の子と遭遇、バスケットボールが身近にあるんだと感じました。既にひとりで再訪したいと思ったくらい私には魅力的な都市でした。

希望者(女性は全員)は夕食に連れて行っていただき、そのあとは夜景を楽しみ、山から下りてくるタクシーのスピードとちょっと粗い運転に酔ったメンバーもおりましたが、一万ドルの夜景を楽しみました。



初日の夕陽



試合当日、ホテルにお迎えに来ていただき体育館へ。3階にあるコート。入口のドアは自動ドア。どこで靴を履き替えるのか戸惑っているとそのままコートまで案内され、日本文化との違いを知らされた。

試合結果は、

女子は千葉M' JETS 23 - 46
男子は香港遠征 47 - 30 JS
と一勝一敗。

香港女性チームは仕事の関係などで6名の参加でしたが、私たちシニアとは違って娘のような方もおりました。怪我もなく楽しく交流ができました。試合が終わると近くのショッピングセンターに繰り出した女性陣。どこへ行ってもきよろきよろと流石です。



女子：淡) 千葉 M' JETS
男子：濃) 香港遠征



会員だより

2日目の夜は、またしても全面的にお世話になって素敵な雰囲気の中で懇親会。度数の高いお酒もふるまわれ大変盛り上がりました。ちょうど誕生日のメンバーのお祝いに数日後の私も便乗させていただき、サプライズでケーキとプレゼント。海外で初めて迎える？歳の誕生日になりました。



←ホテルロビーにて
試合後の懇親会



2日目までは順調に楽しく過ごし、今日帰るといふ朝食中に航空会社より欠航の知らせが入り女性は全員もう一泊することとなりました。

季節外れの台風。香港では珍しいらしく、警戒レベルも8になり、外出禁止令となりました。おとなしくホテルで過ごしておりましたが、じっとしているのが苦手なメンバー、さすがに夕方には少し風もおさまったとレインコートで外出しての夕食。言葉が通じず、でも丁度

隣のテーブルに日本人の方がいらして助け船。美味しい夕飯をいただけました。



翌日の便への手配が出来ず、夜中の2時の便に変更。思いがけずできた一日をどう過ごすかで迷ったあげく、対岸の市場に行くことに。初日に地下鉄に乗せていただいたおかげで切符の購入もスムーズ。怖いもの知らずで帰りはフェリーにまで乗ってしまい、日頃の行いのご褒美にいただいた1日！とばかりに香港を満喫しました。

後半はそんなこんなのパブニング続きでしたが、あっという間の3泊5日、17日誕生日を香港空港で迎え、成田に朝の7時半到着し解散しました。

次回開催がありますように！



Bリーグ盛況

B1リーグ途中経過

[編集部]

9月29日に開幕したBリーグが盛況に推移している。昨シーズン代々木第一体育館でLED照明を駆使してTV放映したような派手な開幕戦はなかったが、開幕早々から多くのファンが各開催地へ足を運び、その人気度は定着した感がある。

開幕から2ヶ月程度なので成績の予測はできないが、特に激戦区と言われる東地区においては昨年とは状況が一変している。

東地区：昨シーズン優勝の栃木ブレックスが負け越して最下位に沈み、アルバルク東京が87%の勝率（13勝2敗）と、抜群の成績で突き進んでいる。次いで、観客動員数トップの千葉ジェッツが（12勝5敗）で追い、川崎ブレイブサンダースが67%（11勝6敗）で追いかける。サンロッカーズ渋谷とレバンガ北海道も勝ち越している。

中地区：シーホース三河が94%（16勝1敗）で2位以下の他クラブを大きく突き放し、昨シーズン健闘した富山グラウジーズをはじめ、他のクラブ全てが負け越し状態で振るわない。

西地区：琉球ゴールデンキングスが71%（12勝5敗）でややリード、次いで京都ハンナリーズが53%（9勝8敗）で追う。滋賀レイクスターズは8勝7敗で勝ち越しているが、それ以外の3クラブは全て負け越し。昨シーズンプレーオフに進出した大阪が24%（4勝13敗）で最下位に甘んじている。

各クラブ経営の一指標ともいえる観客動員数の上位10は別表の通りだが、B1全体の平均観客動員数は開幕当初の3,343名に比べて、第6節を終えたところで2,132名とやや落ち込んでいる。これは、平日開催が多かったことや、開催日の台風来襲など不利な条件が重なったためとも思われる。

しかしながら、人気チームの注目度は上昇中で、千葉、栃木、琉球などの観客動員数は昨シーズンを上回っている。健闘している北海道は、昨シーズン平均2,796名を大きく上回る3,437名の観客を集め、動員数ベスト3に入っている。これらと比べて都会型クラブのA東京と渋谷の観客動員数はあまり振るわず、昨シーズンを下回る2,100名程度。

観客動員数（いずれも第6節までのホームゲーム平均）

順位	2016～2017 シーズン		2017～2018 シーズン	
	クラブ名	動員数	クラブ名	動員数
1	千葉ジェッツ	4,503	千葉ジェッツ	4,968
2	栃木ブレックス	3,356	栃木ブレックス	3,634
3	琉球ゴールデンキングス	3,321	レバンガ北海道	3,437
4	秋田ノーザンハピネス	3,058	琉球ゴールデンキングス	3,430
5	新潟アルビレックスBB	3,014	横浜ビー・コルセアーズ	3,002
6	横浜ビー・コルセアーズ	3,009	名古屋グレイズ	2,881
7	レバンガ北海道	2,796	大阪エベッサ	2,874
8	大阪エベッサ	2,769	新潟アルビレックスBB	2,842
9	名古屋グレイズ	2,703	島根スサノオマジック	2,683
10	シーホース三河	2,501	川崎ブレイブサンダース	2,588

11月19日現在の各クラブ成績

東地区

順位	クラブ名	勝-敗	勝率%
1	アルバルク東京	13 - 2	86.6
2	千葉ジェッツ	12 - 5	70.6
3	川崎ブレイブサンダース	11 - 6	64.7
4	サンロッカーズ渋谷	11 - 6	64.7
5	レバンガ北海道	8 - 7	53.3
6	栃木ブレックス	7 - 10	41.1

中地区

順位	クラブ名	勝-敗	勝率%
1	シーホース三河	16 - 1	94.1
2	富山グラウジーズ	7 - 10	41.2
3	三遠ネオフェニックス	7 - 10	41.2
4	新潟アルビレックスBB	6 - 9	40.0
5	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	6 - 11	35.3
6	横浜ビー・コルセアーズ	4 - 13	23.5

西地区

順位	クラブ名	勝-敗	勝率%
1	琉球ゴールデンキングス	12 - 5	70.6
2	京都ハンナリーズ	9 - 8	52.9
3	滋賀レイクスターズ	8 - 7	53.3
4	西宮ストークス	4 - 13	23.5
5	島根スサノオマジック	4 - 13	23.5
6	大阪エベッサ	4 - 13	23.5

SNS によるアクセス数

もう一つ、注目すべき指標にSNSがある。Facebook. Twitter. Instagram における各クラブへのアクセス数をみると、上位クラブのアクセス数が観客動員数と似通っている点である。これも最近のネット時代を映し出しているようだ。

順位	クラブ名	アクセス数
1	千葉ジェッツ	200,896
2	栃木ブレックス	150,360
3	琉球ゴールデンキングス	131,485
4	レバンガ北海道	75,375
5	富山グラウジーズ	73,513

Wリーグ中間成績

[編集部]

10月7日に開幕したWリーグでは、上位チームと下位チームの格差が表面化している。11月12日現在、全勝でトップを走るJX-ENEOSは別格として、2位から7位までのチームは勝ち越しているが、8位以下の5チームは負け越しで、最下位2チームにいたってはまだ勝ち星がない状況。

順位表

順位	チーム名	勝-敗	平均得点	平均失点
1	JX-ENEOSサンフラワーズ	12-0	96	51
2	トヨタ自動車アンテロープス	10-2	83	61
3	シャンソン化粧品シャンソンVマジック	9-3	77	64
4	デンソーアイリス	9-3	76	65
5	三菱電機コアラーズ	8-4	73	65
6	トヨタ紡績サンシャインラビッツ	8-4	76	70
7	富士通レッドウェーブ	7-5	75	68
8	日立ハイテッククーガーズ	4-8	60	73
9	アイシン・エイ・ダブリュウイングス	3-9	60	79
10	東京羽田ヴィッキーズ	2-10	64	88
11	山梨クィーンビーズ	0-12	61	82
12	新潟アルビレックスBBラビッツ	0-12	55	92

選手層の厚いJX-ENEOSが全勝でトップを走り、次いでトヨタ自動車が追いかける展開だが、昨シーズン気を吐いた富士通が、7勝5敗で7位に甘んじているのは気にかかる。2位から4位までは、まあまあといったところで、三菱電機とトヨタ紡績が頑張っただけ好位置につけていることは、これからの熱戦に期待がもてる。

1、2位チームの平均得点で80点以上は素晴らしいが、勝ち越しているチームの平均得点が70点台であることには不安が残る。ディフェンスを頑張って失点を少なくしての勝利だと思われるが、シーズンが進むにつれ疲労などからディフェンスはどうしても甘くなってくる。そうなると、オフェンスで高得点をたたき出すことが勝利につながることは明らかで、更なる得点力アップを期待したい。

先にも述べた通り、この成績をみると上位と下位の格差が相当あることがわかる。東京羽田、山梨、新潟の3チームは、チーム運営がクラブ方式で大きなスポンサーがなく、その運営に苦労しているようだが、これだけ差が開くと試合そのものが面白さに欠けてしまう。上背や選手の層が異なることは理解できたとしても、今少し粘りを見せつけて欲しい。

平均得点で見ると、1位と最下位では格差が約2倍となってしまう。女子日本代表が上背平均で10cm以上の差を克服して、世界に君臨しているのだから、下位チームも諦めることなく食い下がるべきではなかろうか。

これから上位チーム同士、下位チーム同士の対戦が多くなっていくので、それぞれの星のつぶし合いも見どころの一つになりそうだ。

訃 報

島立 登志和 氏	平成29年 6月28日	享年 84
高橋 健悦 氏	平成29年10月10日	享年 72
西室 泰三 氏	平成29年10月14日	享年 81

長年にわたり、振興会会員として、日本バスケットボール界発展のため多大のご尽力を賜りました。

ここに、謹んで哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

島立 登志和さんを偲ぶ

小澤 正博



島立先生が鬼籍へ入られたことを知ったのは、亡くなられてから時を経てのことであった。

島立登志和さんを先生と呼ぶ人はあまり多くはないと思う。昭和6年長野県ご出身の島立さんは、山梨大学を卒業されてから教員となって、大田区東蒲中学で教鞭をとっておられた。当時大田区の会社にいた私は、その頃は審判の駆け出しであったが、島立先生と大田区大会でお会いした時から先生に尊敬の念を抱くようになった。

その後数年して島立さんは山梨県へ移られたが、当時は何で東京から山梨へ？という感じだった。昭和43年(1968)島立さんが日立甲府女子チームの監督になられ、甲府へ審判に来てほしいと連絡をいただき、甲府へ出向いたときにその理由が理解できた。

島立さんは、当時あまりバスケットボールが盛んでなかった山梨県をレベルアップしようという思いが強かったようである。

そういう意味で、島立さんほどバスケットボールに情熱を注いだ方はいないだろう。日立甲府においても、トップクラスの選手は採用せず、厳しい練習の積み重ねによってそれなりの選手を育て上げるという草の根作戦で多くの一流選手を輩出した。島立さんは大変温和な方で、誰に対しても丁寧にご接しておられたことは周知のことであるが、バスケットボールの試合や練習となると、相当厳しく対応されていたようである。

厳しい練習を積んだ島立さん率いる日立甲府は、昭和44年(1969)関東実業団連盟に加入し、昭和49年には女子1部と秋季選手権大会で優勝し、昭和51年(1976)女子日本リーグ2部へ昇格、その後日本リーグ1部に昇格する。

島立さんは日立甲府の監督を、平成9年(1997)まで30年の長きにわたって務められ、その後部長になられたが、その晩年に大変な事態に見舞われてしまう。

バブル経済が破綻し日本経済に荒波が押し寄せ、日立甲府事業所もそのあおりを受けてバスケットボール部の存続どころではなくなり部は休部となったが、ここでも島立さんのバスケットボールに対する情熱に火が付くこととなる。

島立さんが会社へ存続交渉を行ったのは勿論だが、単なる存続は困難と判断されたとみえて、当時はなかなか難しかったクラブ化を模索されたのである。

島立さんが地元全体を奔走して、甲府チームのバスケットボール存続を訴えた結果、2001年クラブチーム甲府クィーンビーズが発足し、日立甲府の休部は僅かな期間だけで終わったのである。この頃多くの企業のバスケットボール部が休廃部に追い込まれたことは、皆さんご承知の通りである。

島立さんの努力によって復活した甲府クィーンビーズは、2008年に一般社団法人山梨クィーンビーズとなり、これまで部長として務められてきた島立さんは、そこでも代表理事として尽くされ、2013年に引退されるまでバスケットボールへ情熱を注ぎ続けられた。

クラブチームとして現在でも存続している山梨クィーンビーズは、島立さんの情熱を継いで選手各自が仕事に従事しながら練習に励み、Wリーグで頑張っている。

女子チームとしては初めてとなるクラブ運営で、山梨県のバスケットボールを引っ張る山梨クィーンビーズが、現在でも島立さんの遺志を継いでひたすら練習に励む姿は、天国にいる島立さんを安心させるに違いない。

島立さんごゆっくりお休みください。合掌。

高橋 健悦君を偲んで

油井 康



高橋健悦君が平成29年10月10日に黄泉に旅立った。昭和20年生まれ72歳は早すぎる。10歳上の私と同じ年齢までバスケットボールを続ける約束をしていたにもかかわらず、急ぎ足で逝ってしまった。

ヘビースモーカーだった彼が煙草を止めたのが何年前だったか、自分の名前に因んで、KENTに替えてから暫くして本数を減らし、いつの間にか止めていた。『世間の流行りに乗って禁煙したか』くらいに思い、気にしていなかったが、2年くらい前、動くとき動悸が激しくなる症状を自覚し、かかりつけの病院で診断を受けたところ、心配するほどのことはないと言われた、と聞いて一応安心していた。

趣味の海釣りは続けていたので、釣果の鯛、イカ、ひらめ等を我が家に持参してくれた。『他人に自分の弱っているところを見られたくない』意地っ張りの彼は、肺癌であることも、入院のことも『身内以外の誰にも知らせるな』と奥さんに固く言っていたようだ。10月9日6時、箆口令を破った奥さんからの電話で、病院に駆け付けたところ、身内以外の最後の面会人となった私に、自分で言葉を話すことができず、それでも私の話にうなずいたり、微笑みを浮かべたり、反応してくれたが衰弱は明らかだった。そして翌日朝まだき、不帰の人となった。

高橋健悦君の高校時代はさしたる戦歴はなく、本格的にバスケットボールに取り組んだのは20代後半からである。地域で好きなバスケットボールに関わることをない若手を集め、クラブチームを作り、クラブ選手権や県民大会に出場する機会を与えたのが最初で、それが後には県代表、東北大会出場、青年大会全国優勝までこぎつけた。

その後、当時岩手県内に2・3チームしかなかったミニバスケットボールの育成と組織づくりにあたり、小生と一緒に岩手県ミニバスケットボール連盟の設立に寄与し、自らコーチするチームを全国大会に5年連続出場させた。しかし、彼の活躍はこれからが本番である。

創設第1回からの八幡カップに連続出場し、参加選手から『小柄な選手』『懇親会で一番美味しそうに酒を呑む健ちゃん』と親しまれ、同大会のいわば『顔』となった。



同大会の第1回ゴールデンシニア大会 I N札幌では、東北サンガンズの一員として優勝の一翼を担った。

生前『ゴールデンシニアでの関りが一番楽しかった』と言っていたと、奥さんから聞いてほっとした。代々木大会、横浜カップにも出場し、160cmの短躯で走り回るナンバー59のユニフォーム姿を見ることがなくなり、一緒に酒を酌み交わすことができなくなったことは非常に無念であり、また常に私の片腕であり、適切なアドバイザーだった健悦君を失った痛みから立ち直ることは容易ではない。

健悦君と個人的なつながりの深かった、広島、山形、岡山、埼玉、千葉ほか全国のゴールデンシニアの皆さんと共に、この82歳の老躯に鞭打ってバスケットボールを続ける臍（ほぞ）を固めている。

西室 泰三さんを偲ぶ

鹿子木 基員



平成29年10月14日、日本バスケットボール振興会会友の西室泰三さんが亡くなった。西室さんは、日本の偉大な財界人として万人に認められており、お国のために、晩年まで、天皇の生前退位についての意見集約のような、財界の枠を超えた問題にまで尽くされた。世間は今、その功績をたたえる声、賞賛する声に満ちている。

西室さんは、昭和23年（1948年）の春、戦後の混乱の時期に、私立武蔵中学の2年生に編入、私は3年に編入し、バスケットボール部員になった。学制改革進行中のために生徒全員が編入したのである。上級生は、1年からバスケットをやっていて上手、私たちはビギナーだから、ついて行くのが大変だった。

私が、高校2年の秋に、上手な上級生が受験のため部活を卒業して、私が主将の役目を負った時に、持ち前の人柄とリーダーシップで助けてくれたのが西室さんだった。高校2年になったときに生徒の寮が開設されたとき、西室さんと私は隣室になり西室さんと密接な交流の2年間だった。西室さんの大きな人柄は万人に認められていたが、或る晩、西室さんが私に言った「自分がどのような人になりたいと思っているか、人には言いませんが、実は、ダイヤモンドのようにになりたいのです。ダイヤモンドは、誰から見ても綺麗です」。その言葉に私は深い感銘を受けて今日に至っているし、逝去の報に接しての多くの名士のことばに頷いている。

武蔵学園後援会長を務めた西室さんもよく動いた。学校のみならずバスケの同窓会の会合に短時間でも顔を出した。或るとき、私が遅刻して学生会館の会場に入ろうとしたら、中から西室さんが出てきた。「ちょっと呼ばれたので失礼します」といって去って行った。翌朝のニュースで「日本郵政社長に西室氏」と報じられていた。暫くして、西室さんは記者クラブで、「高齢ですけれども、東芝に入って、土光敏夫、佐波正一と言う偉大な先輩の働き振りをこの目で見た経験を活かしてお役に立ちたい」と述べたのを YouTube で見た。

2006年の全日本バスケットボール選手権大会で、東芝が優勝した。東芝の選手が西室会長を胴上げした。私は会場で胴上げを見て、お祝いのメールを打ったら、すぐに返事が来た「社長が応援に行くところだったけど、急に社用が出来たので会長が行くことになって幸せ、バスケット部は他の部より胴上げが丁寧でしたよ」と。

2016年2月、或る国際会議を傍聴に行った。隣席に、偶然西室さんが現れた。日本郵政代表執行役社長と書いてある名刺をくれた。有難いことに会議の開始が遅れた。西室さん曰く「鹿子木さん、あれから又、東芝が優勝したので幸せです」。全日本バスケットの話だった。会議が始まったとき、忙しい西室さんは、既に、杖をついて立ち去っていた。

往時を偲んで涙が出る。合掌

後記：上手だった上級生が卒業して、私が高2で主将となり西室さんが支えてくれたが、前年度全国2位の武蔵高校は、東京都の新人戦では、なんとイチコロの憂き目にあった。その後、佐室有志さんら1年生の参加を得、畑先生の指導でレベルアップし、6・7月のインターハイ予選では優勝し、山形県酒田で行われた第二回インターハイでも準々決勝まで進み、5位相当の成績を修め、その時の1年生が3年になった2年後、初の全国インターハイ優勝に輝き、籠球武蔵の黄金時代が始まった。

事務局だより

◇「12月21日はバスケットボールの日」イベントのお知らせ

「12月21日はバスケットボールの日」に因んで今年も全国各地で様々なイベントが、12月21日はバスケットボールの日委員会主催で開催されます。

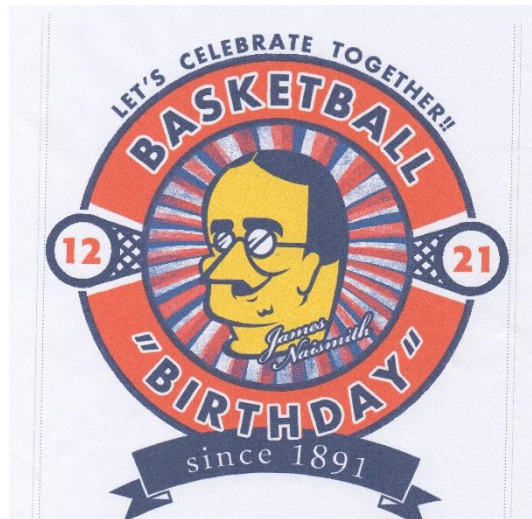
東京では、12月18日（月）に小田急線参宮橋近くの国立オリンピック記念青少年総合センター体育館で、下記のような多彩なイベントが開催され予定です。

開催時間 9時～17時 リレーゲーム
 ドレスアップコンテスト
 車椅子バスケット体験会
 日本バスケットボール学会講演
 バスケットボールの歴史展示
 Bリーグ選手参加と一緒にプレーするゲーム

18時～19時 NBAトーク交流会 他

参加費 1,000円（プレーの有無に拘らず、お楽しみ抽選会あり）

問合せ先 <http://bb1221.com>



◇ 昭和11年の試合映像

昭和11年に開催された関東大学リーグ戦、東京商大（現一ツ橋）VS慶應義塾大の試合映像が復元されて事務局に保管されている。

今年7月に一ツ橋大学バスケットボールクラブ役員会で紹介されたが、非常に興味深いものであった。

これらの歴史的資料は振興会事務局に保管されているので、興味をお持ちの方は事務局へ問い合わせを。

振興会事務局 TEL 03-3219-9311
E-MAIL sinkokai@jbbs.jp

NPO法人
日本バスケットボール振興会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-40
豊明ビル 301号室
電話／FAX (03) 3219-9311
メール sinkokai@jbbs.jp

染めるだけじゃない! ハーブの作用で嬉しい効果



野菜・食材だけでなく 白髪染めも安心なものを

植物原料100%から生まれた
自然派の白髪染め&トリートメント

化学の力に頼らず安心して白髪を染めることができる。
自然界には天然の色素を持つ植物が沢山存在します。
ヘナがその代表的な植物であり、天然の染色力を持つだけでなく、素晴らしいトリートメント効果をあわせ持ちます。頭皮と髪を傷めずに美しく艶やかに染められるのが大きな特徴です。



白髪染め + 潤い・ツヤ + ハリ・コシ



グリーンノートヘナ・ヘナスーパー

- オレンジブラウン ...1500円+税
- ライトブラウン・ナチュラルブラウン ...1600円+税
- スーパーブラウン (早染め) ...2200円+税

オーガニータ (エコサート認証ヘナ)

- ビターオレンジ・ノンカラー ...1800円+税
- サハラブラウン・アースブラウン・ディープブラウン ...2300円+税
- ノンカラー ...1600円+税

株式会社 グリーンノート ☎ 03-3366-9701 詳しくは公式サイトをご覧ください ▶▶ <http://www.henna.co.jp>

横浜中華街 皇朝点心舗

世界チャンピオンの肉まん

楽R天 YAHOO! JAPAN 第1位 第2位



1個100円 (税込)
※各種お土産取扱店



皇朝レストラン 第1位 第2位

時間無制限!

食べ放題

120種以上 1,990円~ (税込)

※点心飲茶

王朝 (担担麵)

ランチ、コース、ドリンクも充実!

中華街に、こだわり健康志向! 特製ツカメ練り込み無使用の卵々麵をはじめ、お料理50種以上。麵・ご飯20種以上、お酒20種以上をご用意!

横浜中華街 店舗案内

皇朝レストラン 食べ放題



BASKETBALL STREET

渋谷センター街では、スポーツ振興と青少年の健全育成を基本理念に、国際色・ファッション性を考え合わせ、メイン通りの名を「バスケットボールストリート」とし、2012年秋にはシンボルとなるモニュメントも設置いたしました。

5年10年と時をかけて、、、
この「バスケットボールストリート」通称「バスケ通り」を定着させていきたいと考えています。



バスケットボール ストリート



渋谷センター街